

このマップについて

津波ハザードマップに示す津波浸水深は、熊本県が公表した「熊本県津波浸水深想定」によるものであり、以下に示す3つの階層による津波のシミュレーション結果を重ね合わせ、最大となる浸水域、最大となる浸水深を示しています。

① 雲山断層群 ② 布田川-日奈久断層帯 ③ 南海トラフの巨大地震

○ 浸水域や浸水深等は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域中でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

○ 避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。

○ 浸水域や浸水深等は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所があります。

○ 津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していますが、津波の遡上により、実際には水位が変化することがあります。

津波対策10か条

- 津波から身を守る最大のポイントは、「逃げるが勝ち」です。地震発生後、津波による災害の発生が予想されたら、すぐに避難しましょう。
- 家族会議を開こう**
避難する場所を事前に家族で話し合っておきましょう。
 - 小さな揺れでも油断厳禁!**
小さな揺れでも津波の危険性があります。
 - 引き潮がなくても注意!**
津波の前に引き潮が必ずあるとは限りません。
 - 満潮のときは要注意!**
水位が高くなっているため、被害が大きくなります。
 - 津波のスピードは速い!**
「津波警報」や「警報」が出る前に津波も来ます。たぐり避難しましょう。
 - 高い場所へ避難する**
海岸から「より遠く」ではなく、「より高い場所」へ避難しましょう。
 - 注意報、警報が出たら**
家族や近所知らせて、急いで高台へ避難しましょう。
 - 正しい情報を聞く**
テレビ・ラジオ・防災無線などで、正しい情報を聞き取りましょう。
 - 津波はくり返し来る!**
津波はくり返し襲ってきます。波が落ち着いたまでは避難しておきましょう。
 - 海岸・河川に近づかない**
【注意報】や【警報】が解除されるまで、海岸や河川には近づかない。

施設等凡例

- 一時避難場所
- 区役所・出張所
- 津波警戒ライン
- 避難方向
- 新幹線
- JR
- 国道
- 主要道路
- 市境

津波浸水深予測範囲(浸水深)

- 5.0m~10m未満
- 2.0m~5.0m未満
- 1.0m~2.0m未満
- 0.3m~1.0m未満
- 0.01m~0.3m未満

【津波警戒ライン】
想定される津波の水位が2.9~3.0mあり、想定を超える津波の可能性もあるため、+1.0m安全側に見て、概算4.0mの境界を津波警戒ラインとして示しています。

【避難方向】
津波の恐れがあるときは、津波警戒ラインを参考に、標高が高い方向に向かって逃げてください。また、決して海に近づかないでください。

津波に関する警報・注意報

地震発生後、津波による災害の発生が予想される場合、気象庁より大津波警報・津波警報・津波注意報が発表されます。

種類	発表する津波の高さ	とるべき行動	想定される被害
大津波警報	10m超 10m 5m	●沿岸部や川沿いにいる人はただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 ●津波は繰り返し襲ってきます。警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
津波警報	3m	●沿岸部や川沿いにいる人はただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 ●津波は繰り返し襲ってきます。警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m	(表記なし) ●海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。 ●津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしないでください。	海の中では人は強い流れに巻き込まれる。波高が大きい。浸水被害が発生し、小艇が転覆する。

津波から身を守るために

強い地震(震度4程度以上)を感じたとき、または強い地震でも長い時間ゆっくりした揺れを感じたときは、安全な場所に避難してください。

- 強い地震や長い時間の揺れを感じたら
- 津波警報・大津波警報が発表されたら

●ただちに海岸から離れ急いで高台などの安全な場所に避難する。

津波注意報が発表されたら(揺れを感じない場合も)

- 正しい情報をテレビ、ラジオで入手する。
- 海水浴や磯釣りなどはただちに中止する。
- 津波は繰り返し襲ってきますので、警報、注意報が解除されるまで海岸に近づかない。

非常持ち出し品について

いざというときに備えて、非常持ち出し品を準備しておきましょう。

食品・水 ●飲料水(300mlペットボトル1箱) ●乾パン(300kcal1缶など) ●火を消さないでも使える火災消火器	救急・安全関係 ●ヘルメット(国産安心) ●防災用品(非常用電源・懐中電灯) ●個人やお年寄りの常備薬
日用品 ●筆記用具(ボールペン、ライター) ●財布、大切な写真や書類 ●ビニール袋(ゴミ袋など) ●携帯電話	衣類など ●衣類(下着・上着) ●タオル ●手袋、軍手
貴重品 ●現金(現金は多めに) ●印鑑 ●権利証券 ●健康保険証 ●クレジットカード	その他 ●洗面用具(歯ブラシ・石けん) ●ほ乳びん ●紙おむつ ●メガネ